

# これから前に進んでいくために

文&写真

学生記者

佐藤 檀子 (法学部3年)

「映像が綺麗」という知識しか持たない中で、アニメーション映画『君の名は。』を観に行った。

観終わった後、映像の綺麗さや、ストーリーが独創的で面白く、大勢の人の心をわしづかみするのが分かった気がして、新海誠監督の作品、監督自身の世界観に強く興味を持った。

私は「無知から有知へ」を目標に掲げている。辞書を探してもどこにもない、私が考えた言葉である。自分の成長のために掲げた目標であるが、日々たくさんのことを知っていく中で、今まで見ていなかった現実が浮き彫りになり、自分自身の将来に不安が募っていた。

そんな中、昨秋のホームカミングデーで中大OBの新海監督が来校すると知り、友人を誘って「スペシャルトーク&作品上映会」に参加した。監督作品には『君の名は。』で初めて触れ、映像の綺麗さに思わず息を飲んだ。

トークイベントの聞き手は、やはり中大OBでラジオパーソナリティーでもある川田十夢氏。トークの前に2013年作品の『言の葉の庭』の上映があった。そこで感じたのは、監督は日常の一つひとつを大切に感じているということだ。

SFではなく満員電車を描きかけたと述べていた監督は、この世の中で生きている人々の思いや

葛藤、日々変わる天候にも細部までこだわりを持っていたように思われる。

強く惹かれたのは、音が丁寧に、かつ鮮明に描かれていることだ。雨音、野菜を切る音、靴の音…普段気にすることのない音が、こんなにも楽しませてくれるものであるのだと改めて思った。

大学3年生である私は、将来のことを真剣に考えている中で、「社会人」と話す機会が増えた。

将来の夢としていた仕事をしている方々と話す機会があるのはとても貴重だ。そんな方々とある程度話せるかと思いきや、なかなかうまく話すことができないのである。

子どものときは恐れも感じず、目上の人に対しても堂々と話したものだ。しかしそれは、いい様に言えば恐れるものは何もないと考えていたからだ。

それが「悪いように思われたくない」という不安が強く募り、経験が少ないことや準備不足なのは理解しているものの、「社会人」と話すことに対して不安を覚えてしまった。

トークイベント終了後、新海監督と川田氏に直接お話を伺える機会に恵まれた。その際、「お2人は学生の頃、大人(社会人)について



米国への留学中、「自分の伝えたいことを伝える」ということが、いかに重要かを痛感した

どのような思いを抱いていましたか」と、自分が不安に思っていることを思い切って質問した。

川田氏は、昔から人に伝えようと考えていたから特に意識はしていなかった、と話してくださった。その言葉を聞き、私は自分のことばかりを考えすぎて、周りの人のことを考えていなかったのだと痛感した。

新海監督は、以前は自分の内面を意識してやりたいと思う作品づくりをしていたが、だんだん人々に望まれるもの、かつやりたいことを意識してつくるようになったと、開陳された。

取材を終えて、気が付いた。私は「人ひとりひとりを意識する」ということができていなかった。

相手のことを思い、伝えていくことがどれだけ大事であったのか。『君の名は。』の主人公たちは、お互いを伝えるために必死になっていた。

伝えるとき、私はどれだけ必死になっていたのか。これからは、自分に関わりを持ってくれる相手を思いやり、自分のことを必死に話していきたいと強く思った。